

I-2

学園創立者 清水安三・美穂・郁子
清水美穂

崇貞工読学校の初代校長

清水（旧姓 横田）美穂（1895.7.23-1933.12.19）は、滋賀県彦根市に生まれた。彦根教会に夏季伝道で来ていた神学生 清水安三と出会って覚醒した。美穂は自ら伝道師になることを志願し、洗礼を受けて同志社女学校（現 同志社女子大学）を卒業した。

同志社の宣教師 デントンは、美穂に家事手伝いをさせながら卒業までの学資支援を続けた。デントンハウスの客には、矢島楯子や新島八重、賀川豊彦がいた。美穂は矢島が会長をしていた婦人矯風会の活動に参加し、廃娼運動の活動家になった。また、中国に渡った清水安三と結婚した美穂は、災童収容所の活動に参加して、中国人の子どもたちを早魃飢饉から救った。さらに、貧しい家庭の少女たちを自助自立させるための学校、崇貞工読女学校を開設して校長を勤めた。

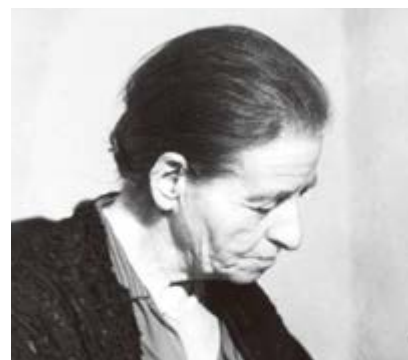
美穂が師と仰いでいたのはデントンであり、賀川を孤児救済の範としていた。美穂は38歳で天に召されたが、その遺骨は、遺言によって中国の人々に捧げられ、今も崇貞学園の校地に墓標と共に眠っている。作家 松本恵子は、宣教師安三の伴侶として生きた美穂の生き方を、『大陸の聖女』に著している。



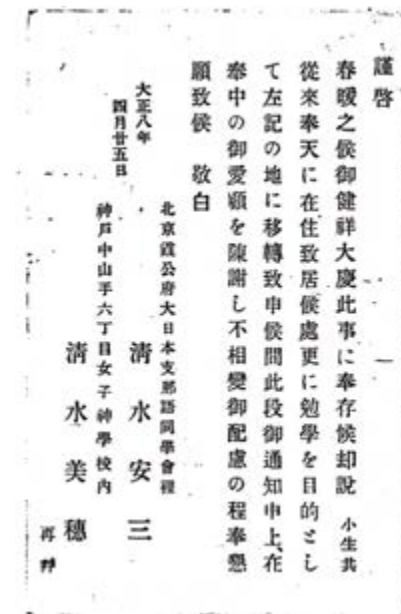
■同志社女学校（女専）卒業時（1918年）
前から2列目・左から3人目が美穂。



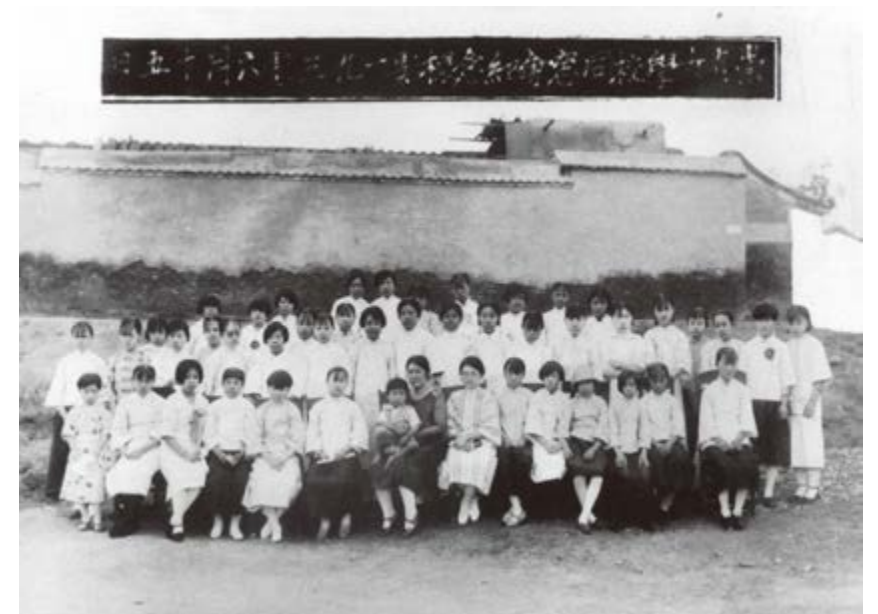
■家族写真（1923年頃）
安三と長男の泰、美穂と長女の星。



■M. F. デントン（1857-1947年）
同志社の教員。美穂はデントンの尽力で奨学金を得ており、大きな影響を受けた。
（同志社女子大学史料センター提供）



■1919年4月の安三・美穂からの北京への転居ハガキ
安三は、「満州」から五四運動直前に北京に拠点を移した。



■崇貞女学校の校長時代の美穂
崇貞女学校の記念写真。前列中央で子どもを抱くのが美穂。写真上部に「崇貞女学校」という文字が見える。



■『基督教世界』での美穂の訃報（1934年1月1日号）
竹中勝男同志社大学教授による記事。



■美穂の肖像（1933年頃）
『朝陽門外』には「第三部 活ける供物—清水美穂の生涯—」が含まれている。
（朝日新聞社『朝陽門外』グラビアから）



■美穂記念碑
2002年4月16日建立。崇貞学園の地にある陳経綸中学内に設置され、碑文には『朝陽門外』所収の墓碑銘が用いられている。



■松本恵子『大陸の聖女』表紙
この本の副題は「故清水美穂子伝」。美穂の生涯が描かれた。
（郷友社、1940年／同志社大学神学部提供）